

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一歩「オープン・ザ・ドア！」

Open the Door!

国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Vol.17

NEXT STAGE

～体験活動の拡充のために～



特集1 31年目の挑戦

特集2 地域との連携

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open the Door!



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325
<https://myoko.niye.go.jp/>



Open the Door! Vol.17 令和5年3月発行



NEXT STAGE >>>

— 31年目の挑戦 —

国立妙高青少年自然の家は、昨年度開所30周年記念事業を終え、令和4年度新たな出発をしました。31年目は、少子化、コロナ禍、経済状況の悪化、教員の多忙化など、青少年の体験活動の推進にむづかしい状況であり、新たな挑戦をしなければならぬ年となりました。

より多くの青少年に質の高い体験活動を提供し、その成果を確かめ、さらに成果を全国に広げていくことを意識し、次の取組を重視しました。

まずは、妙高青少年自然の家を利用していただかなければ妙高での体験活動は始まりません。利用者数にこだわりました。研修支援では、「オモイをカタチにする」丁寧な事前打ち合わせ、直接指導での指導力を高めるための研修の充実、利用者の満足度を高める丁寧な対応と事務手続きの効率化、利用者アンケートの分析と全職員への周知等、利用者のリピート率を高めるための最大限の努力をしました。また、分かりやすい広報、県内外の未利用の教育委員会、校長会、大学、企業や団体など直接利用啓発の訪問を実施し、リピート団体に加え、新たな利用も見られるようになっていきます。

一方、教育事業では、新たな内容と連携を模索しました。年間40を超える教育事業を実施しました。妙高ならではの自然や人とたふりと関わる体験を再度見つめ直したり、味付けをしたりしました。職員のアイデアで、新たに企画した「じっけん！ はっけん！ 親子でしぜんたいけん」「親子でブッシュクラフト体験！」「世界とつながる！ 親子でハロウィンひるば」「国少カップ」妙高青少年自然の家 親子トレイルランニングレース」「新春親子書初め体験」は、まさに妙高の自然や人の魅力を再確認できた教育事業でした。また、「キッズアドベンチャー」「親子でXmasケーキ作り」に絵本専門士を活用した活動を加えることで、「層活動」に深みや広がりが生まれました。

また、私たちは教育者でありますから、子供たちの成長のために、どんな教育をすればよいか日々研修を深めることが必要です。実践研究事業として、チャレンジキャンプ2022（8泊9日の統合型長期キャンプ）を実施しました。事業は2年目ですが、新たな考え方、手法、プログラム、支援、振り返りがあり、新規事業のように私は感じました。筑波大学の先生方や大学院生さんからのご指導やご支援があり、研究という名前がふさわしい事業で、「課題を抱える子供」に対するプログラムの組み方や支援の在り方は、自立支援や研修支援でも活用できることがよく分かりました。

さらに、前述のような成果を全国に発信・広報するために、全国体験活動推進フォーラム「誰一人取り残さない体験活動の取組」を開催しました。「すべての青少年の手に届く体験活動を！」というテーマで、当施設で実施してきた「発達障害や不登校傾向等の課題を抱える青少年の体験活動」「特別支援学校における体験活動」「経済的に困難な状況にある青少年の体験活動」の成果を全国の教育関係者に知っていただくことができました。

最後は、31年目を迎えた施設や環境の整備です。妙高の体験活動（財産）を維持するため、誰にでも利用していただくために、皆様の協力をいただきながら整備計画を立てることができました。老朽化した妙高アドベンチャーのエレメントを新しくすること、第2野外炊事棟周辺をユニバーサルデザイン化すること（日除けの東屋の建築、駐車場、車椅子で移動できる森林の道の整備、家族や個人でも組立テントでキャンプができる場所の整備など）です。整備は令和5年度に完了します。

31年目の挑戦は、これで終わりではありません。妙高の恵まれた自然や人の環境とかわからない変わらない原点を大切にしながら、変わっていく社会課題や青少年や利用者のニーズを踏まえながら、また今後も挑戦を続け、常に進化し続けるフロンティアとしての妙高青少年自然の家でありたいと思います。

国立妙高青少年自然の家 所長 小林 朋広



31年目の挑戦

国立妙高青少年自然の家では、開所31年目を令和4年度を新時代へのスタートとしてとらえ、さらに体験活動の拡充を加速させるために、日々新しいことを考えています。その中から、今年度企画した新事業をご紹介します。



親子でブッシュクラフト体験!

10/15



ロープワークでシェルター作り
「巻き結び」や「自在結び」など、シェルター作りに必要なロープワークを学びます。用途によって結び方を変えるのは難易度高めです！腕を枝に見立てて、ペア同士で結び方を何度も練習しました。



シェルターを張る枝を集めよう!
森を歩きながらシェルター作りに必要な枝を探します。太さや長さ、曲がり具合などに注目し、辺りをよく観察します。講師のすえちいわく、お目当ての枝がお宝のように光って見るとか……。



森を感じよう! 感覚瞑想エクササイズ
地面の感触や森の音などを五感で感じながら、自分の居心地のよい場所を探します。居心地のよい場所を見つけたら、そこがシェルターを張る拠点になります。



焚火で焼きリンゴ作り
リンゴをアルミホイルで包んで火の中へ入れます。砂糖などの味付けは一切せず、リンゴの自然の甘味だけで焼いたリンゴは絶品です。ほくほくととろとろのリンゴをホットココアやコーヒーと一緒に親子で味わいました。



枝を集めて火おこし体験
森に落ちている枝を拾い集めて焚火の燃料にします。どのような枝を集めるとよいか、どのような順番でくべるとよいかなど、火がおこきする方法を考えながら挑戦していきます。



10月15日(土)に「親子でブッシュクラフト体験!」が開催され、9組24名の方が参加されました。妙高の自然を身近に感じながら、様々な森のサバイバル術を親子で楽しみました。

そもそも「ブッシュクラフト」とは、森などの自然環境の中における「生活の知恵」の総称で、自然の中で生活していく行為そのものや生活に必要な技術といわれています。

「コロナ禍で自然体験活動にふれる機会が少なかったり、普段から便利な道具に囲まれた生活をしていたりする現代の子供たちにこそ、「生きる力」を育むことができる体験が必要だと感じたことが、このイベントを開催したきっかけでした。

長野県松本市にある「すえなみブッシュクラフトスクール長野」から野遊びのスペシャリストである「すえつち」こと末次克洋さんと「きゆうちゃん」こと玉田尚子さんのお二人を講師にお招きしました。

道具をなるべく使わずに、自然にあるものを活かして森の中で過ごす体験は、親子の仲を深めるだけではなく、子供たちの中に隠れている生きるための「知恵」や「術」を引き出すきっかけとなりました。

じっけん! はっけん!
6/4-5
12/17-18

親子でしぜんたいけん!



コロナ禍だからこそ、子供たちに体験活動の場を提供したい! 妙高の素晴らしい自然を感じたり、科学実験の面白さを味わったりする事業がしたいなあ!!



国立妙高青少年自然の家 所長

6月4日(土)~5日(日)

- 体験活動の意義や効果(保護者向け講話)
- 星座観察 ※曇天のため室内で星のお話
- 野鳥観察会
- 親子でワクワク実験

12月17日(土)~18日(日)

- 体験活動の意義や効果(保護者向け講話)
- 実験ショー 講師 上越科学館 永井館長
- 星座観察 ※曇天のため室内で星のお話
- 親子でワクワク実験

参加者の感想



- **子** とりをみるのがたのしかった。なぎこえがかわいかった。
- **子** ベットボトルのさかながういたのがたのしかった。
- **親** コロナで体験活動や出かける機会が減っていると感じていたところに、この事業を知りました。実験や自然を五感を使って楽しむことができました。
- **親** 天気が悪く星が見られませんでした。家でたくさん見せてあげたいです。

参加者の感想



- **子** 永井先生の実験ショーはすごかった。いろいろな作って思い出がふえてうれしかった。
- **子** うごくスライムとメダル作りがたのしかった。
- **親** 家ではできない実験や星のお話を聞けてよかったです。親子でたくさん体験できて幸せな二日間となりました。



10月30日(日)に国際交流を目的とした「世界とつながる! 親子でハロウィンひろば」を実施しました。地元のアLTとして活躍されている方々を講師としてお招きし、楽しいブースを準備していただきました。特に、目隠しをしてジャックオーランタン(かぼちゃのおぼけ)を完成させる「alloween [kukuarai] (ハロウィン福笑)」や、段ボールで作られた牛に投げ縄を引っ掛ける「cow [asso] (牛投げ縄)」、紙皿で怪しげなマスクを作る「Mask Craft (マスククラフト)」、箱の中身を当てる「Mystery Box (ミステリーボックス)」はとても人気でした。地元の方からいただいた観賞用かぼちゃでつくったジャックオーランタンを使ったフォトスポットも好評で、たくさん写真を撮っていたきました。

日帰りの実施としましたが、参加者は総勢で180名まで増え、たくさんの方からご参加いただくことができました。スタッフや参加者がそれぞれアニメのキャラクターなどに仮装して活動しました。親子で仮装している方も多く、非日常的な空間を楽しむことができました。

国際交流を目的とした事業は、ここ数年実施しておらず、このようなことができるかチャレンジする気持ちで実施した事業でした。これからも、遠くに行かなくても外国から来られている方と触れ合う体験の機

10/30

親子でハロウィンひろば



会を増やしていきたいと考えています。ご参加いただいた皆様、ありがとうございます!





毎年たくさんの方が楽しみにしてくださるこの事業。今年は前日に降った雪でクリスマス気分が盛り上がる中、27組84名の親子が集まり開催しました。

1日目は、自然の家周辺で採取した自然物(マツボックリやドングリ)や、モールやビーズなどを使い、クリスマスの飾りつけにぴったりのクラフト作りを行いました。マツボックリをクリスマスツリーに見立てたり、モールで星をかたどったり、思いおもしろい作品を作り上げていました。

親子で Xmas ケーキ作り

12月3日(土)~4日(日)
参加:27組84名

体験活動普及啓発事業



クラフト、Xmas ケーキ、絵本の時間、親子で一緒に楽しむことができとても充実していた。

家族それぞれの時間を重視していただけたので、親子で思い出してもすばらしいものになりました。

けえきのかざりつけがたのしかったです。

ロールケーキをまるめたところたのしかった。

スケジュール

1日目	
はじまりの会	えほんの時間
クリスマス クラフト	夕食
早ね早おき オリエンテーション	入浴・就寝
2日目	
起床・朝食	えほんの時間
ケイク・サレ作り	プッシュドノエル作り
	解散

2日目は、お待ちかねのXmasケーキ作りです。講師を株式会社ニコトラスの太田店長と鹿住さんに務めていただき、プッシュドノエルとケイク・サレ(塩味のケーキを作りました。プッシュドノエルとは、丸太や切り株を模したケーキのことです。この種類のケーキは今年が初めての挑戦でした。

まずは、お手本を見てケーキの作り方やコツを学び、いよいよクッキングスタート。ケーキシートに毎クリームを巻いていき、生クリームやクッキー、チョコレートで飾り付けをして仕上げていきました。同じ材料を使っているのに、ご家族ごとに出来上がりは様々で、世界に一つだけのスペシャルケーキが出来上がり! ケーキが出来上がるころには、先に作っておいたケイク・サレも焼き上がり、アツアツを味わいました。楽しさいっぱい、おいしさいっぱいのXmasケーキ作りでした。

★クッキングのレシピ (プッシュドノエル、ケイク・サレ)

ご家庭での体験へつながるようにしおりに掲載しました。



自然体験は決してハードルが高いものではなく、身近な環境でも挑戦できるものです。身の回りの小さな緑や生き物、季節を感じる空の色など、山や海に行かなくても小さな自然は日々の生活で感じることが出来ます。

キッズアドベンチャーでは親子で同じ自然体験をします。同じ体験を共有することで、子供たちがどんなことを感じているのか知ったり、家庭とは違う子供の姿を見て「自立」や「自己肯定感」を感じたりして、ご家庭での身近な自然体験につながる第一歩となればうれしいです。

キッズ アドベンチャー

体験活動普及啓発事業



参加者の感想

バードコールは簡単に作れ、驚きの音色なることにビックリしました! 自宅に戻ってからもお気に入りですと鳴らしています

子どもは慎重に進んで行くのかと思いきや、ぐんぐん進んでいって頼もしい姿を見ることが出来ました。

絵本も「これあったねー」と図書館で探して読んでます。

スケジュール

1日目	
はじまりの会	えほんの時間
バードコール作り	夕食
ネイチャーゲーム	早ね早おき 紙芝居
	入浴・就寝
2日目	
起床・朝食	えほんの時間
源流探検	プッシュドノエル作り
	解散

自然の中を歩くきっかけのひとつとして、バードコール作りに取り組みました。穴をあけた枝にボルトをねじ込んでいくと、小鳥の鳴き声のような音が奏でられるので、幼児でも手軽に作る事ができるクラフトです。



参加者の感想

雪のない地域に住んでいるので、ふわふわの雪はとっても嬉しかったみたいです。

普段も雪のある生活なのですが、雪の楽しさが分かり普段でできないことができてよかったです。

ゆったりとした時間設定の中で子どもと話したり、本を読んで一緒に発見をしたり、それだけでいいのだなとかんじられる時間になりました。

スケジュール

1日目	
はじまりの会	えほんの時間
深雪探検	夕食
クラフト ソルトペインティング、モビール作り	入浴・就寝
2日目	
起床・朝食	えほんの時間
源流探検	プッシュドノエル作り
	解散

ソルトペインティングとモビール作り
雪のように盛り上がった塩の上に絵の具を垂らし、世界に一つだけの作品を作りました。森の枝やマツボックリで作ったモビールも、それぞれ素敵な作品ができました。



源流探検
ワクワクした気持ちで集まった子供たち。冷たい水の中を進んだり、石や砂で歩かずにいこうを全身を使いながら歩いたりして、初めてのことに挑戦しました。水が流れ落ちる大きな岩は滝のようでしたが、元気いっぱい勇気いっぱい乗り越えました。進む中で出会ったのは、たくさん生き物です。日常では出会えないような小さな命の存在を知ることができました。

夏の活動
8月20日(土)~21日(日)
参加/15家族 52名

深雪探検
前日から降り積もった新雪の中へ元気づく飛び出した10組の親子。ふかふかの雪をかき分けながら登り、雪の柔らかさを全身で感じました。親子で協力した雪積みは高く積み上げたり、ハート型の雪を乗せたりして、時間が短く感じられるほど熱中。また、スノーフラッグでは新雪の中を思いきり走り、目印めがけてタイピングキャッチ! 親子で楽しい時間を過ごしました。

冬の活動
1月21日(土)
参加/10組 34名

ショップをはじめ、子供たちの読書活動の推進に携わる絵本の専門家の協力のもと、今年は2事業を実施しました。

キッズアドベンチャー 源流探検/田中浩之さん (群馬医療福祉大学社会福祉学部教授)

親子でXmasケーキ作り/朝日仁美さん (絵本でSDGs 推進協会代表理事、糸魚川市学校図書館司書)



1 絵本専門士による読み聞かせにワーク
2 保護者向けプログラムの様子
3 自由に手に取れるよう、絵本コーナーを常設

親 読み聞かせの後「絵本がみたい」と、終日絵本コーナーでゆったりと子供に読み聞かせをしたのは久しぶりでした。

親 子どもだけでなく親も楽しめ、絵本の楽しさを再認識。冬はたくさん読みたいですね。

子 ケーキづくりの絵本がおもしろくて、じぶんでもかきみてみたいですねとおもいました。

絵本専門士の方に選書していただいた絵本は、なかよしホールに配置しました。ぜひ手に取ってご覧ください!

体験活動普及啓発事業 「読書活動」



国立青少年教育振興機構が行った調査では、読書活動は意識・非認知能力や認知機能の向上に関連することが報告されています。特に絵本は言語力、感性、理解力を発達させ、豊かな人格形成をもたらしたり、年齢にかかわらず新たな世界を発見、体験したりできるものです。また、コミュニケーション能力、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの社会性を養うこともいわれていますが、近年は世代を問わず読書冊数や読書時間が減少傾向にあるといわれます。

絵本専門士との協働による読書活動は、親子や幼児等を対象として、絵本の世界が実際の体験と繋がる心地よさを感じられるよう企画しました。

絵本専門士とは、絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家です。

子供の読書活動を充実させるため、学校、家庭、地域において様々な読書活動を支援し、絵本の読み聞かせやワーク



地域ぐるみ —親子トレイルランニングレース—

11月5日(土)・6日(日)に、日本を代表するプロトレイルランナーである石川弘樹さんを講師にお招きし、小学1年生から中学3年生を含む親子(11家族35名)を対象にトレイルランニング体験を行いました。広場で整地されていない道をとるときは体の動かし方を体験してから、当施設敷地内のフィールドを走りまわりました。森の紅葉に包まれる素晴らしい景観の中、落ち葉を踏みしめながら走る参加者たち。五感を使って自然の中を走ることの気持ちよさを実感しました。

今年度で4回目となるこの親子トレイルランニング体験。今回初めてトレイルランニングレース(国少カップ)を行いました。全国各地のトレイルランニングレースをプロデュースされている石川さんが、「この妙高青少年自然の家の豊かなフィールドでレースを行えたらおもしろいレースになる」と、事業を始めた当初から構想を温めていたものでした。

石川 弘樹氏
1975年生まれ。
神奈川県出身 東京農業大学卒。
日本初のプロトレイルランナー。
アスリートとして世界中のレースやトレイルを駆け巡り、国内ではトレイルランニングの健全な普及を目指してレースやイベントなどをプロデュースしている。

「国少カップ」も配られました。このカップは、レースの給水所で使用しました。石川さんは、「地域財産」であるトレイルを守るため、普段から環境について考え、土壌汚染につながるペットボトルや使い捨てプラスチックを使わないようにされています。参加者の方々にも石川さんと同じ思いをもつていただくよい機会となりました。

石川さんをはじめ、たくさんスタッフの方々に支えていただき、参加親子の絆の深まりはもちろん、参加者自身で大会を盛り上げるアットホームな雰囲気にも包まれた事業となりました。



書初め体験

1月8日(日)に、当施設で初めての事業となる新春親子書初め体験を行いました。この事業は、文化庁による芸術家派遣事業の講師などを務めている柳澤魁秀さんを講師にお招きし、親子29組85人が参加しました。

初めに柳澤さんから書道パフォーマンスを披露していただきました。初めて間近で書道パフォーマンスを見る参加者が多く、子供たちは目を輝かせながら柳澤さんの情熱的なパフォーマンスを見つめていました。巨大書が完成すると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。柳澤さんから参加者に向けて『夢のつぼみ』という素敵な書とメッセージを送っていただき、会場が感動的な雰囲気に包まれました。

その後、参加者はグループに分かれて、順番に「巨大書制作」「餅つき体験」「正月クラフト」の3つの活動を体験しました。

巨大書制作では、親子で110cm×250cmもの巨大紙に書きたい字を



1日目

体の動かし方

マイメダルづくり

開会式

2日目

全員で記念撮影!

ゲートをくぐってゴール!!

落ち葉を踏みしめる音が気持ちいい

石川さんから順位カードをもらいました

気持ちのいい秋晴れ

地域との連携

国立妙高青少年自然の家では、子供たちの健やかな成長にとって体験活動がいかに重要であるかを広く地域に伝えるため、新潟県内の青少年教育施設や民間企業等と協働して事業を展開しています。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まって、3年が過ぎました。学校の教育課程に位置付けて実施する体験活動も減少し、子供たちの成長にも影響が出ていることは否めません。

「コロナ禍であるからこそ、県内の多くの子供たちに良質な体験を届けたい」そんな思いから、新潟県の地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動を拡充させるために、連携の在り方や事業内容を見直し、改善しました。

県内11の青少年教育施設で構成する新潟県青少年教育施設連絡協議会に「体験の風をおこそう運動推進実行委員会」を置き、その実行委員の指導や評価を受け、県内の施設や団体との連携を強化しました。具体的に今年度は次の取組を実施しました。



6つの取組

1 新潟県の青少年教育施設内と令和4年度のイベント情報の作成及び配布

県内小学5・6年生全員と教育委員会や教育施設等に配付し、多くの方に体験活動に参加していただきました。

2 フェスティバルの実施

10月に「感謝祭」、2月に「スノーフェスティバル」を開催しました。数多くの施設や教育団体と連携し、県内外の親子に多くの体験を提供できました。

3 施設連携事業

「遊ぼう! わんぱくキャンプ」「つながろう! たいないキャンプ」「つながろう! はね馬キャンプ」など、県立こども自然王国、県少年自然の家と連携して、キャンプを実施しました。上中下越の多くの子供たちが、カヌー、ツリーイング、雪上遊びなど質の高い体験活動を楽しみました。

4 企業・団体等との連携事業

企業・団体等と連携し「トキ鉄でGO!」、「国少カップ～妙高青少年自然の家 親子トレイルランニングレース～」、「信越トレイルキャンプ」など、地域ぐるみでダイナミックな体験活動を実施でき、高評価をいただきました。

5 出前体験活動

学校や社会教育施設、放課後児童クラブ等、様々なところに出向き、主団体と連携し、自然の家の職員がクラブや体験活動、早寝早起き朝ごはん運動の指導を行いました。

6 体験活動推進月間の取組

県内の青少年教育施設や団体に依頼し、体験活動推進月間の体験活動を拡充しました。令和4年度は、2月時点で19団体により70の体験活動を提供していただきました。

以上連携を強化し、大きな成果が見られました。連携してくださった皆様、ありがとうございました。

01

遊ぼう!

わんぱくキャンプ



柏崎市にある新潟県立こども自然王国と連携し、「遊ぼう! わんぱくキャンプ」を実施しました。県内の小中学生13名が参加し様々な体験を通して、参加者同士の交流を深めました。

1日目は、プロジェクトアドベンチャー系のゲームやクラフト活動を楽しみました。ゲームでは、ほとんど初対面だった子供たちが様々なアクティビティに挑戦しながら、仲良くなっていく姿が印象的でした。クラフト活動では、自然物を用いながら思い思いに自分の好きな壁掛けを楽しく制作していました。

2日目は、カヌーに乗って鱒石川の流域を探検しました。カヌー初体験の参加者が多く、最初はぎこちない様子でしたが慣れてくると次第に笑顔が増え、川の流れに任せて進んだり、川の流れに逆らって上流を目指したりと一人一人が大自然を満喫していました。

2日間を通して、子供たちの交流はもちろん、スタッフ間の情報交換も大変よい勉強になりました。これからも連携を深め、子供たちにとって魅力的な体験活動を提供したいと思います。



02

つながろう!

たいないキャンプ



胎内市にある新潟県少年自然の家と連携し、「つながろう! たいないキャンプ」を行いました。県内の3年生から6年生までの小学生15名が参加し様々な体験を通して、参加者同士の交流を深めました。

1日目は、焼杉板づくりに挑戦しました。グループのメンバーと協力して、薪を組んだり、火を起こしたりしました。杉の板を焼き、すずを落として布でよく拭くと、木目がきれいに浮き出てきます。その板にマジックペンで絵や文字を書き、オリジナルの壁掛けを作りました。

2日目は、ツリーイングに挑戦しました。Tree Master Climbing Academyの講師の方から、道具の使い方を教えてもらったあと、全身を使って木登りをしました。高いところから眺める景色は、最高の思い出になったようです。

県少年自然の家のフィールドの特性を生かした体験活動を行うことができました。グリーンシーズンの力強い体験は人気プログラムです。これからも連携を深め、魅力的な自然体験活動を提供していきたいと思えます。



QRコードから「つながろう! たいないキャンプ」の様子をYouTubeでご覧いただくことができます。



03

つながろう!

はね馬キャンプ in 妙高



はね馬キャンプは、子供だけで参加する数少ない自然の家の事業で、例年たくさんの子供たちが応募してくれました。今年度は小学生46名が参加し、クラブトや冬ならではの自然体験活動を行いました。

クラブトでは、妙高市グリーン・ツリースム推進協議会と連携し、タイルを敷き詰めて作るコースターづくりに挑戦しました。杉の木枠にタイルを敷き詰め、世界に一つだけのコースターを作ります。杉の木の手触りや香り、タイルの色彩など五感を刺激する活動になりました。

雪上での自然体験活動の内容は、法人ボランティアである大学生が中心となって考えました。班の仲間と協力して雪の秘密基地を作ったり、そりを使ったりレーや雪玉を使った当てるなどのミッションに挑戦したりしました。子供たちからは「楽しかった」「もっとやりたい」という声が聞かれ、元気いっぱい活動する姿がたくさん見られた「はね馬キャンプ in 妙高」となりました。



妙高市 SDGs 教育交流 コンソーシアム × 自然の家



8月7日(日)、「竹でご飯を炊こう」をテーマに親子対象で市内の矢代地区古民家カフェにて実施しました。竹の間伐材を再利用することでご飯が炊けるという発想に子供たちも興味津々です。自分で竹を加工(研磨等)し、米を研ぎ、薪で炊いたお米は最高の味となりました。自分の努力の現れです。自分でできたという自己有能感も高まりま



す。便利な社会ですが、自分たちのできることを二つ意識するきっかけとなりました。

妙高市 SDGs 普及啓発実行委員会 × 自然の家



12月21日(水)「笑顔で共に学ぶ妙高っ子」質の高い教育をみんなに」をテーマにSDGs普及啓発ウェビナーに参加しました。妙高市教育委員会丸山指導主事と共に妙高の教育・子供たちについてSDGsの視点、児童生徒が主体的に学ぶ学校教育、幼児が遊びを通して成長する姿などについて話し合いを行いました。さらに「誰一人取り残さない教育」や「こどもまんなか」の重要性について再認識を図ることができました。

妙高市 グリーン・ツーリズム 推進協議会 × 自然の家



【夏休み】
2022年8月22日(月)
仲間づくり活動・ネイチャーゲーム
【春休み】
2023年3月26日(日)・27日(月)
仲間づくり活動・スノーたんけん

年に2回の「親子ワークショップ」を行いました。保護者は日常の仕事を行い、子供たちは大自然の中で仲間と共に遊びます。初めて出会った子供たちも、活動を通して理解し合いコミュニケーションを深めていきます。仲間と協力し自然の中に入っていきます。自然の大きさや不思議さ、厳しさなどを直接身体で感じます。「妙高に来てよかった」と感じて帰っていきます。子供たちの原体験として記憶に残り大人になっても妙高を訪れてくれるでしょう。

放課後児童クラブに おける 出前授業



小学校の放課後児童クラブに自然の家の職員が出向き、様々なクラフトを子供たちに提供し、活動を行いました。地域と連携して児童クラブの教育活動を支援し、より多くの子供たちに体験活動のよさを味わってもらいたいという思いがあります。活動中の子供たちは、友達同士で考えて作ったり、分からない子に教えてあげたりする姿が見受けられます。作るころから遊ぶころまで一連となった活動のため、クラフトに熱中し、みんな楽しんで活動を行っています。



みどりの学習



森林環境学習「みどりの学習」が本格実施されて2年目となります。「みどりの学習」では関係団体と連携し、子供たちが「ほんものの自然」に触れることを通じて、興味や好奇心を引き出すとともに、自然を愛し大切にしようとする心情を高める環境教育を推進しています。

○おもな活動プログラム
森探検、源流探検、秘密基地づくり、スノーシューハイク、樹木オリエンテーリング、藤巻山ハイキング、クラフト



このように多くの方のお力添えをいただきながら「みどりの学習」を実施しました。



さらに充実した学習となるよう、指導資料や教材の整備を進めていきます。学校や利用団体のニーズに応じて、活動プログラムの紹介や用具の貸出等を行います。お気軽にご相談いただきたいと思います。

09

地域・企業との連携 感謝祭



国立妙高青少年自然の家をご利用いただく皆様へ感謝するとともに、体験活動を通して親子の触れ合いを深めていただきました。今年は入場制限を設けず、多くのご家族からお越しいただき、恐竜くんのトークショーやクラフトなどを楽しんでいただきました。会場のおちこちで子供たちのあふれる笑顔を見ることができました。

感謝祭を実施するにあたり、40名を超えるボランティアの方々と外部団体(16団体)の皆さまからご協力いただきました。楽しい活動をご提供いただき、ありがとうございました。



10

企業との連携 トキ鉄でGO!



9月10日(土)から11日(日)の2日間にわたり、「トキ鉄でGO!」を実施しました。

この事業は、えちごトキめき鉄道株式会社と連携して、参加者が鉄道の魅力を再発見したり、電車で移動した地域ならではの体験活動を行ったりすることを目的として企画しました。当日は7名の小学生から参加していただきました。

まず、実際に鉄道を利用して直江津駅から筒石駅まで移動しました。筒石駅は、トンネルの中にホームがある「モグラ駅」となっており、子供たちは異世界のような空間を楽しみながら駅を見学しました。その後、筒石漁港の見学や磯遊びを体験したり、メギスをさばく体験をさせていただいたりして筒石地域ならではの体験を楽しみました。

直江津駅に戻った後、駅長さんや職員の方から直江津駅や鉄道について普段では見ることのできない場所や秘密を教えていただきました。

最初は緊張の面持ちだった子供たちも、いつの間にか打ち解けあって、和気あいあいと談笑する姿が見られました。体験発表会では、「珍しい電車を見ることができて



感動した!」「みんなと友達になれてよかった!」「魚料理がおいしかった!」などを輝かせて感想発表している子供たちの姿が印象的でした。参加した子供たちにとって地域を走る鉄道の重要性や魅力を再発見することができ、大変貴重な機会となりました。

11

信越トレイルキャンプ



日本のロングトレイルの代名詞「信越トレイル」の一部を歩くキャンプは3回目を迎え、今年は晩秋のトレッキングを楽しみました。

1日目の信越トレイルクラブ事務局鈴木栄治さんと佐藤有希さんによるお話の内容は「ロングトレイルってなに?」「トレイル整備の方法」などです。スライドで見ると美しい景色に「歩いてみたい!」と声がある場面も。実際にテントや寝袋などの装備品や整備に使う道具を手に取ってみたい、トレイルに立ってある道標を手にしたりしながら、興味深いお話を聞くことができました。

トレッキング当日はあいにくの天気のため短縮コースになりましたが、信越トレイルクラブ登録ガイドの吉村友加さん・山森由枝さん・及川真弓さんと歩くセクション1・2は、足元の落葉のサクサクした感触を味わいながら進みました。道標を辿りながら森のビンゴで自然と触れ合い、またブナの実を見つけたら草笛を覚えてもらったりして、家族でトレッキングを楽しみました。信越トレイルは全長110km。着替えや食べるものを背負いテント泊しながら歩くロングトレイルの醍醐味を体験する試み

として、今年はテント泊体験やシングルバーナーで簡単山ごはんなどにも挑戦しました。参加家族からは「いつかは全線踏破してみたい」という感想も聞かれました。



12

出前 クラフト



国立妙高青少年自然の家では、自然豊かなフィールドや施設内で多くの体験をすることができ、より多くの方に体験を届けたいという思いのもと「出前クラフト」を行っています。新潟県内の企業や地域のイベントなど様々な場所にブースを出展させていただき、自然のものに関連したクラフトを提供しています。実際に自然の家に落ちている小枝や木の実、落ち葉などを使うクラフト体験では、自然のものを使い何かをつくりあげることに熱中して取り組んでいる姿が見受けられます。参加された方々からはこんな声が聞こえてきます。

「もう一回作ってみたい! 家でも作ってみる!」

「自然のものでこんなもの作れると思わなかった!」

他にもたくさんの方の声をいただきますが、出前クラフトを通して子供たちの創造性や、やってみたい気持ち、新たな発見を生み出していると実感しています。



地域探究プログラム

全国の各施設で昨年度から本格実施となった高校生対象の「地域探究プログラム」。妙高は今年度、学校連携型と個人募集型の2つの異なる実施方法で、より地域と密接に関わる事業を目指しました。



今年度は「地域探究プログラム」の学校連携型として、9～10月にかけて新潟県立久比岐高等学校1年生の「総合的な探究の時間」の授業サポートを行いました。合計で6時間分の授業に関わらせていただきました。上越市地域おこし協力隊の活動に着目し、地域の課題解決に取り組む姿や探究の手法について学びました。

講師は協力隊として令和3年に着任した柿崎区在住の筒井博貴さん。筒井さんは、東京都出身で様々な職業を経験した後、地域おこし協力隊の活動に興味をもったことでした。現在は柿崎区の下牧集落に住んで、棚田米の品質向上や移住者獲得に向けた活動をされています。

生徒たちは事前学習として全国で活躍す

る地域おこし協力隊について調べ学習を行いました。協力隊は地域課題の解決に向けて、資源を活用して新たな取り組みに挑戦していることを学ぶことができました。講話では、筒井さんが協力隊として活動するまでの経緯や、現在どのような活動をしているかを説明していただきました。生徒たちは筒井さんの講話の中で、「柿崎に一目惚れした」という言葉がとても印象的だったようです。地元の人にとって「当たり前」なことが、「魅力」につながることを学ぶことができました。

最終日は実際に下牧集落へ行き、フィールドワークを行いました。筒井さんが生活している古民家見学や集落の生活道路をきれいにする作業の手伝いなどを体験しました。古いものを直しながら新しいものを作り変えていく楽しさや、地域に貢献する活動のやりがいや充実感を学ぶことができました。自分から課題を見つけて、その解決策を探るという筒井さんの活動自体がまさに探究そのものであり、生徒たちは多くのことを学んでいました。「何も無い場所かと思っていたが、たくさん発見があった」

味わうことができました。好きなことを探究し続けることの大切さを、小西さんから直接学ぶことができました。

2日目には、妙高市地域のこし協力隊の塚田太郎さんから「妙高産ワインづくりへの挑戦」というテーマで講話を聞き、農作業を体験しました。大学では海洋生物を研究していた塚田さんが、妙高市でワイン用のブドウ栽培に挑戦する姿は高校生にとって刺激となりました。体験後には自然の家に戻って、塚田さんの立場だったからどんなことができるかという仮説をグループで話し合いました。塚田さんも高校生と一緒に考えてくださり、探究の手法について学ぶ機会となりました。

3日目には自分が住んでいる地域の課題について考え、実践活動の計画を立てました。様々な視点からの課題があり、その解決策についても高校生目線で興味深いものがたくさんありました。

実践活動は高校生が自ら協力者を探して連絡を取り、活動につなげることができました。森を守りたいという気持ちから子供向けの自然物クラブ体験の場をつくったり、地域の良さを再認識するために2,000枚の写真を集めてフォトモザイク作品を作ったり、地元農業の課題に対して大学生を巻き込んで農業ボランティアに挑戦したりしました。自分で課題を設定し、解決のために行動することの難しさを感じている様子でした。

という生徒の振り返りが、このプログラムの成果の一つだと感じました。



7月16日(土)～17日(日)と31日(日)で、個人募集型「地域探究プログラムオリエンテーション(合宿)」を実施しました。新潟県と長野県から8名の高校生が参加しました。中には昨年からの2年連続で参加している高校生もいました。

1日目の講話とフィールドワークでは、長野県信濃町在住のプロスノーボーダー小西隆文さんから自分の好き、得意なことを地域貢献活動に生かせることを、体験を通じて学ぶことができました。小西さんは徳島県からの移住者で、地元でスケートボードやボルダリングを楽しめるパークを運営しています。学校帰りの子供たちがパークに集まり、一緒に宿題をし、遊ぶことができる「放課後の居場所」となることを目標に活動をされています。高校生は小西さんの想いに触れ、実際にスケートボードに挑戦しました。また、別の場所でマウンテンバイクを楽しめるコースづくりも行っていて、参加した高校生は林の中を疾走する感覚を楽しみつつ、コースを整備する苦勞も



挑戦のステージ
8/4・5



出会うのステージ
7/30



準備のステージ
7/9・10

未来につなげるステージ
8/6・7



自立のステージ
8/2・3



協力のステージ
7/31・8/1



令和4年度文部科学省委託事業

チャレンジ

キャンプ2022

仲間と共に踏み出す「自分の一歩」

子供たち。親も一緒に参加し、キャンプの説明を聞いたり、子供たちの頑張りを見守ったりしました。

いよいよ本キャンプ。日本海を臨む船見公園で開会式を行い、9日間にわたるチャレンジキャンプがスタートしました。「出会いのステージ」では、指定されたチェックポイントを通って約13kmの道のりを歩きました。「協力のステージ」は2日間で約43kmを移動します。真夏の太陽が照り付ける中、仲間と励まし合いながら歩き続けました。「自立のステージ」では、野尻湖でカヤック体験を行いました。カヤックを巧みに操作して、水の活動を楽しみました。火打山・妙高山を縦走する「挑戦のステージ」では、雨が降る中でスタートとなりました。悪天候のため火打山山頂を目前に下山する決断をすることになりました。子供たちはとても残念な思いをしましたが、翌日に火打山山頂を果たした時には、充実感や達成感を得ることができました。「未来につなげるステージ」では、キャンプ全体を振り返り、自分自身の頑張りと成長を画用紙にまとめたり、自分たちでゴールパーティーを企画運営したりしました。閉会式では、前日にまとめた振り返りを誇らしげに家族に紹介する子供たちの姿を見ることができました。

チャレンジキャンプを通して、日を追うごとにたくましく成長する子供たちがいました。自分の力で100km歩いたという自信を胸に、未来につながる一歩を一人一人が踏み出してくれることを願っています。

「チャレンジキャンプ2022」は、海や山が近い国立妙高青少年自然の家の立地を生かし、海から山へと100kmの道のりを自分の力で踏破する統合型キャンプです。「歩く」活動をメインとして移動しながら、9日間で野外炊事、テント泊、カヤック、登山などの様々な活動にチャレンジしました。小学5年生から中学3年生の男女12名が、一人一人自己を見つめ、他者と協働しながら課題に立ち向かうことで自己肯定感を育み、これからの生活につながる「自分の一歩」を踏み出す後押しとなることを目指して実施しました。

このキャンプは、本キャンプの9日間に事前キャンプの2日間を加えた計11日間でを行います。11日間を「5つのステージ」で構成し、それぞれのステージで「目指すこと」を子供たちとスタッフが共有しながら進めていきます。

事前キャンプは「準備のステージ」として、参加者が安心して本キャンプに臨めるように、必要な心構えやスキル（山の登り方、野外炊事、テントの設営、テント泊など）を学びました。すぐに仲間と打ち解け合います。



全国青少年体験活動推進フォーラム 「誰一人取り残さない」体験活動の取組



11月19日(土)に文部科学省委託事業「体験活動を通じた青少年自立支援プロジェクト」として「全国青少年体験活動推進フォーラム」を開催しました。「すべての青少年の手に届く体験活動を！」をテーマに107名の方から参加を頂き、参加満足度100%の高評価を得ました。

第1部の鼎談では「困難な課題を抱える青少年の体験活動」の推進について、4名の講師の方から熟議を頂きました。いくつかのポイントを紹介いたします。

○子供時代に、「いちかばちかやってみよう」とドキドキしながらも挑戦する遊び、五感をフルに発揮して遊ぶこと、熱中し飽きることなく夢中になって遊び、自己選択や自己決定を通して自分の頭で考え行動する個別最適な遊びへ繋がると思っています。このような過程を大人はありのままの姿で容認することも併せて重要です。

○困難な課題を抱えた青少年の体験活動は、一つの単体（機関）では無理が生じます。カウンセリングや福祉の力など、様々なネットワークの中で取り組むことが大切です。また、プログラム展開では自然を活用することです。自然の中で歩かざるを得ない状況は偶然がおきる余裕をつくります。偶然性は子供を変える契機となります。

り、こだわり等の同姓性を崩すことがあります。

○感動体験は教えられないものでしょうか。文字で示しても伝わりません。本物に出会うことや直接体験を通して感じるものです。さらに Well-being を保障する体験活動、幸せになるといふことはどういふことでしょうか。人を幸せにするのは人の役に立つことだと思えます。学校の先生方は、今、よりも、未来のことを考えて今の幸せを大切にしていけないような気がします。子供は今の自分に生懸命です。

○体験活動に正解はあるでしょうか。無いと思います。自分の頭で考え、どう行動したらよくなるのかを考え、課題を解決し適切な答えを見出します。正解は子供の成長です。体験を通してメタ認知や、コミュニケーション能力、共感する力などが成長します。子供たち自身がかじりかじりとする力を自ら身に付け、大人が教えないということも大切です。

第2部の分科会では「課題を抱える青少年の体験活動の実践」について各講師から発表を頂きました。（下記の図1に発表内容のポイントを一つ抜粋します。）

第1分科会	発達障害や不登校傾向等の課題を抱える青少年の体験活動 キャンプ中に得た「感動体験」は、時間の経過とともに子供たちにとっての支えとなりその後の人生に生きてくる。
第2分科会	特別支援における体験活動 宿泊体験を通して児童生徒のできること、できないことを知ることが自立に向けた基本的な力を育む上で貴重な学びとなる。
第3分科会	経済的に困難な状況にある青少年の体験活動 自然体験活動は、親子の絆を深め子供の成長につながる貴重な機会であると捉えている。参加者も、企画・運営することで学生の学びにもつながっている。

(図1)



企画委員会の皆様（年間4回の企画委員会を開催し、様々な企画を頂きました）

- 企画委員会委員長 鼎談ファシリテーター 明石 要一氏（千葉敬愛短期大学学長）
- 企画委員・第1分科会コーディネーター 坂本 昭裕氏（筑波大学教授）
- 企画委員・第2分科会コーディネーター 伊野 巨氏（上越市高田西小学校介護員）
- 企画委員・第3分科会コーディネーター 中野 充氏（新潟青陵大学准教授）

分科会講師の皆様

- 第1分科会 村松 研一氏（国立妙高青少年自然の家）
- 第2分科会 福田 功氏（新潟県立高田特別支援学校校長）
- 村山 哲氏（妙高市立総合支援学校教頭）
- 第3分科会 村山 郁枝氏（一般社団法人新潟市母子福祉連合会）
- 佐藤 瑞稀氏（新潟青陵大学ボランティアセンター）

令和4年度指導者養成事業

自然体験活動指導者養成研修 (NEALリーダー・インストラクター)



全国体験活動指導者認定委員会 自然体験活動部会における自然体験活動指導者養成カリキュラムに則り、自然体験活動指導者養成研修を実施しました。

国立妙高青少年自然の家では、自然体験活動を提供するとともに子供たちが安心して指導者の育成を行っています。

今年度は6月にNEALリーダー養成研修、9月にNEALインストラクター養成研修を実施しました。

NEALリーダー養成研修では、指導者としての心構え、振る舞いをはじめ、自然環境下での緊急事態に対するリスクマネジメントの基礎、基本的な救命措置法などを学びます。さらにNEALインストラクター養成研修ではNEALリーダーとしてのOJTを経た自然体験活動指導者が自然体験活動における企画や運営、評価の方法やNEALリーダーを指導する立場としてのリスクマネジメント、指導法、フィールドや多様な参加者の特性への理解を深める重要性などNEALリーダーよりワンランク上の内容を学びました。国立妙高青少年自然の家ではこのように自然体験活動指導者養成カリキュラムに則り、段階的に指導者を養成することで、養成研修に参加した指導者が活躍できる機会や場を提供していくとともに体験活動の拡充を目指しています。

今年度の養成研修においては、自然体験活動を実践している地域の方や、現場の第一線で活躍されている民間の指導者の方、大



学の先生や元国立妙高青少年自然の家職員の方々に講師をしていただき、充実した養成研修を実施することができました。講師を務めていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

令和5年度において、NEALインストラクター養成研修は実施しませんが、上位資格であるNEALコーディネーター養成研修及び、NEALリーダー養成研修を実施します。是非、国立妙高青少年自然の家で自然体験活動指導者としての基礎を学び、子供たちが安心・安全に活動するための一助となつていただければと思います。

※OJT:「On-the-Job Training」の略で、実務を通して、経験を積むことをいいます。



妙高を支える人たち

ボランティア活動から得たもの

私は、法人ボランティアとしての活動を国立室戸青少年自然の家で始め、上越教育大学の大学院に進学した今でも、継続的に活動しています。

私が感じるボランティア活動の魅力は、活動前後で自身の見方や考え方が豊かになることです。それまでとは違ったやり方で子供と関わったり、子供と同じ視点に立つて一緒に活動してみたりすると、それまでの固定概念が崩され、変わっていく自分に好奇心すら覚えました。

私は、もともと早くこのボランティア活動を始めればよかったと感じることがあります。それは、ボランティア活動が、自分の新たな一面を知る機会となり、その後の進路により影響を与えると考えるようになったからです。

将来は、自分が住む地域に魅力を感じ、自己成長できるボランティア活動を高校生に広げていきたいです。



上越教育大学
大学院 2年
上原 草さん

妙高で得た経験

私は大学生活の4年間で国立妙高青少年自然の家のボランティアとして、様々な経験をしました。子どもと雪の中で思い切り遊ぶ経験、子どもと火を起す経験、子どもと信頼を深める経験など、普通の大学生活では味わえないような経験をここに書ききれないほどしました。

そういった様々な経験をする事ができたのも、自然の家の職員さんをはじめ、指導者の方々、共にボランティアをする仲間たちのおかげです。

来年から教員として子どもたちと関わっていきませんが、国立妙高青少年自然の家での4年間の経験がある分、少しだけ自信を持って教壇に立つことができます。自然の家での経験を活かして、教師として子どもたちの学びをつくらせていきたいと思っています。



上越教育大学
学部 4年
武田 諒祐さん

協賛企業紹介

国立妙高青少年自然の家を応援してくださる企業や団体、地元の商店の皆様には、日ごろから子供たちの活動や自然の家の活動にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

令和4年度

【協賛金・支援金をいただいた企業等】

有限会社アイピーオート、朝日酒造株式会社、有限会社イシノ、株式会社イデア、糸魚川市教育研究会、伊那美装株式会社、内田進様、えちご上越農協岡山支店、岡本石油、株式会社雲田商會、高坂防災株式会社、コーエイ株式会社妙高営業所、小林商店、株式会社スワローズキー、関山郵便局、セブンイレブン妙高関山店、株式会社第一印刷所上越支店、株式会社高館組、株式会社田辺エンジニアシー、有限会社中央モーターズ、株式会社桐朋、永田印刷株式会社、新潟県労働金庫新井支店、新潟みらい建設株式会社上越営業所、新潟県学校スキー研究会、株式会社西脇電気商會、日本曹達株式会社二本木工場、株式会社パーツプロタクシヨ、株式会社橋詰商會、株式会社浜田材木店、原通郵便局、株式会社深松組上越営業所、株式会社藤田建設、株式会社丸山酒造、妙高建設株式会社、有限会



社安田商會、株式会社渡辺リネン

【寄附物品でご支援をいただいた企業】

株式会社伊藤園上越営業所、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社上越支店、株式会社スノーピーク
(50音順・令和5年2月末現在)

岡田八重子さんが

文部科学大臣表彰

自然の家の玄関を抜けると、利用者の皆さんをお迎えするように、壁に大きな陶板作品がいくつも飾られています。これは、地域の子供たちが、自然の家の設立10周年を記念して制作された作品や過去の教育事業で制作されたものです。

このたび、長年にわたりこれらの陶芸作品作りの指導者としてご尽力いただきました岡田八重子さんが社会教育功労者として、文部科学大臣から表彰されました。この表彰は、青少年教育のボランティア



活動などに10年以上精励し、功労のあった方に対して行われるもので、岡田さんは自然の家が設立された当初から、利用者の陶芸制作に携わってきました。

基本的な制作の過程は、①土作り②土練り③成形④乾燥⑤素焼き⑥絵付け(釉薬)⑦本焼きとなりますが、①土作りから③成形までの工程を岡田さんの指導のもと、利用者のみなさんが作業し、④乾燥から⑦本焼きまでの工程を岡田さんがご担当されていました。⑥絵付けは、作成者の意図と出来上がりイメージしながら作業していたそうで、⑦本焼きでは、どうしても高温で焼き上げるため作品が割れることもあるそうで、壊れないよう特に気を使っていたそうです。

【編集後記】

今年度、開所31年目を迎え再出発しました。「コロナ禍が続いていますが、青少年の「体験活動をとめない」をスローガンに職員一丸となって取り組んできました。総利用者約66,000人、教育事業等を34本開催し、多くの方にご利用を頂きました。

青少年一人ひとりが、自分の興味関心に即して遊び学び探究しています。さらに仲間と過ごす中で、他者理解やコミュニケーションの大切さに気づいていきます。

改めて体験活動は、青少年の成長に必要な教育活動であると確信しております。結びに、個別最適な遊びや学びが保障され、誰一人取り残されることなく、青少年が一人ひとり自己実現できる社会を一緒に作っていきましょう。

引き続き、国立妙高青少年自然の家をよろしくお願いいたします。

国立妙高青少年自然の家 次長 室井 修一

「オープン・ザ・ドア!」17号に係るアンケート

毎年年度末に発行しているこの「オープン・ザ・ドア!」は、コミュニケーションマガジンとして平成18年度に第1号が刊行されて、今年度で17号目となりました。

今後より一層、内容の充実を目指して、ご利用者様がどのような情報が必要としているのかを調査したくアンケートを実施することいたしました。次のQRコードからご意見やご感想を頂戴できれば幸いです。

